



2017 日本 中国

ティーンエイジ アンバサダー

日本プログラム 報告書

7月10日（月）～7月17日（月）



～この「笑顔」で友情の架け橋を築く～

AEON 1%
Club Foundation

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

関係者各位

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

報告書（日本プログラム）

日頃よりイオンワンパーセントクラブの活動にご理解とご協力を賜わり、誠にありがとうございます。2009年から継続的に行っている本事業は、今年9年目を迎えました。日本で交流した内容を下記の通りご報告申し上げます。

■実施期間：2017年7月10日（月）～2017年7月17日（月）

■実施目的：両国の友好親善の促進

■参加者：①日本高校生70名

筑波大学附属高等学校 20名（北京市の高校生と交流）

東京学芸大学附属高等学校 15名（北京市の高校生と交流）

札幌日本大学高等学校 20名（青島市の高校生と交流）

岩田高等学校 15名（武漢市の高校生と交流）

②中国高校生70名

北京市：北京景山高等学校 10名（筑波大学附属高等学校と交流）

北京市三里屯第一高等学校 10名（筑波大学附属高等学校と交流）

北京市順義区牛欄山第一高等学校 15名（東京学芸大学附属高等学校と交流）

武漢市：武漢外国語高等学校 15名（岩田高等学校と交流）

青島市：青島第58高等学校 20名（札幌日本大学高等学校と交流）

■主なプログラム：

①表敬活動：

- ・首相官邸への表敬訪問、外務省への表敬訪問（四方参事官との質問会）
- ・中国駐日本国公使郭燕様との質問会
- ・中国駐日本国大使館歓迎会
- ・北海道庁への表敬訪問
- ・大分市への表敬訪問

②歴史文化体験活動、他

- ・浴衣着付け体験、浅草見学
- ・富田さとにわ耕園 収穫体験
- ・藍染体験、和太鼓体験、竹細工体験、羊毛クラフト体験
- ・東京大学訪問 など

③交流活動

- ・授業体験（東京、北海道、大分にて実施）
- ・ホームステイ、フェアウェルパーティー（同上）

■従来との相違点：

- ①中国駐日本国大使館と外務省に「日中小大使友好宣言」を贈呈
- ②東京大学に初訪問
- ③北京テレビ局からの初密着取材（記者1名、カメラマン1名同行）
- ④表敬活動の充実（北海道副知事への表敬訪問実現）
- ⑤外務省の日中国交正常化45周年記念事業の認定
- ⑥外務省後援名義を初申請



■ 表敬活動

- ・ 首相官邸への表敬訪問
外務省への表敬訪問
- ・ 中国駐日本国公使郭燕様との質問会
- ・ 中国駐日本国大使館歓迎会
- ・ 北海道庁への表敬訪問
- ・ 大分市への表敬訪問

→ 中国小大使より手作りの刺繍
を萩生田官房副長官へ贈呈



・ 首相官邸表敬訪問

日 時：2017年7月12日（水）11:00～11:30

表敬相手：萩生田光一内閣官房副長官



日本首相官邸表敬訪問記念写真 2017.7.12（東京・北京組）



・ 中国小大使代表スピーチ

中国の古典『韓非子』には、「国交は国民の親しみにあり、国民の親しみは心の絆にある」という名言があります。中国と日本は隣国であり、運命共同体ともいえるでしょう。われわれはこれから国を支える新世代として、お互いにスムーズなコミュニケーションを取れるよう、また、将来の日中関係に多少なりとも貢献できるよう努力していきたいと思ひます。

——北京景山高等学校 学生

・ 日本小大使代表スピーチ

この交流プロジェクトにあたって、私たちは日本の若者を代表し、中国の良さを理解するとともに、中国の人々にも日本の良さを理解してもらうことに努めます。そして、両国の関係が一層親密になるように自覚をもって積極的に取り組みたいと思ひます。

パンダが親善大使となったように、私たちも小大使として日中友好の証しとなることを強く願ひ努力いたします。

——筑波大学附属高等学校 学生



・外務省表敬訪問及び質問会

日 時：2017年7月11日（火）11:00～12:00

表敬相手：岸田文雄外務大臣

質 問 会：四方敬之参事官



日中国交正常化45周年、この節目の年に外務省にいらっしゃい、大変歓迎です。目で、心で、しっかりものを感じ、共有すること、直接交流することで、日中の安定を維持するために相互理解を高めていくことが大事です。2020年東京オリンピックの時、皆さんは大学に入り、日中両国の支持者になって互いに応援して欲しいです。未来を担う交流、45年間の交流の積み重ね、さらにより一層発展させること、それぞれの分野で活躍し、日中の架け橋になって欲しいと思います。（抜粋）
—岸田文雄外務大臣



日中小大使の皆様、是非日本にいる期間、さまざまなことを体験し、日本人について自分なりに理解し、帰国後友人、家族に伝えて頂き、より一層日本に関心を持ち、そして将来日中友好関係の架け橋になって欲しいと期待しています。
皆さんも是非若いうちにいろいろなことを体験し、視野を広げてください。（抜粋）
—四方敬之参事官



・四方敬之参事官との質問会

Q:日中小大使交流イベントについてどう思いますか、また高校生の私たちに何が期待されていますか？

A:今回のイベントを通じて、たくさんの友人を作るきっかけとなって欲しい、それは20年、30年、一生の友人となります。こういうプログラムは留学や就職のきっかけになるのではないかと考えます。日本と中国は文化的に共通している部分があります。例えば、両方とも漢字を使っています。日本の新聞を読む時、ある程度理解ができるでしょう。文化が異なる部分や意見が一致しない時、日中の架け橋になる人材が不可欠だと考えます。もっと勉強したいというきっかけになれば、このイベントは大成功だと思います。



Q:日本では海外留学の人が減っている。外務省として、何か打つ手がありますか？

A:日本から海外への留学は近年減っています。望ましくないと思います。政府としてもいろいろな政策を考えています。例えば、日本の高校生を対象に、文部科学省が「トビタテ」という留学促進キャンペーンをはじめて、日本人の海外留学を支援しています。また、海外から日本にくる留学生が増えることによって、日本人も刺激を受け、自分も行ってみようという気持ちになります。日本の企業は海外市場の競争が激しい中、国際的に活躍できる人材を確保するため、海外留学への奨学金を出す会社も増えています。もちろん政府がいくら支援しても、学生のやる気がなければだめです。だからこういう活動を通じて、挑戦する気持ちになって欲しいと思います。



・中国大使館での質問会

日 時：2017年7月11日（火）16：45～17：45
質 問 会：郭燕公使

Q：今後私たちは小大使としていかに中日の友好を促進すればいいかアドバイスをいただけませんか。

A：まず今回の日本への訪問中に、自分の目で見て、思う存分交流してください。また自分で見たこと、聞いたこと、感じたことを中国に戻ってから自分の家族、友達に共有することもとても大事だと思います。今回の交流を通して、日中関係に対してより関心を持っていただきたいと思います。皆さんが、将来立派な社会人となり、中日の各分野における交流において、貢献できるように願っています。

Q：外交官は非常に責任が重大で、とても高い能力が求められていると思いますが、言葉と能力だけでは足りないと思います。外交官の仕事をするうえで、もっとも重要な能力は何でしょうか。

A：まったくおっしゃる通りだと思います。外交官になるには語学だけでは不十分だと思います。より求められることは、高度な使命感・責任感・貢献の精神、そして情熱の気持ちです。駐在する国との友好関係の促進や発展という情熱を持つことがとても大切だと思います。また幅広い知識・能力、特に人とコミュニケーションする能力がとても重要だと思います。こういう情熱・能力がある人こそ外交官になれると思います。



・中国大使館歓迎会

日 時：2017年7月11日（火）18：30～21：00



↑集合記念写真（中央左から程永華大使、汪婉大使夫人、野田毅先生、郭燕公使、中川正春議員、小淵優子議員、福田達夫議員、加藤鮎子議員、四方敬之参事官、謝約処長、山本良一理事、瀬戸英雄監事、森正勝監事、上田将祐様。中央から右岡田卓也名誉会長、横尾博理事長、茂木敏充議員、加藤勝信大臣、丸川珠代大臣、古川元久議員、福山哲郎議員、中山泰秀議員、高志勇副主任、林直樹相談役、森美樹評議員、豊島正明監事、岡崎双一理事、河原健次社長。）総勢220名。



「中国 日本 ティーンエイジアンバサダー」活動は重要で深遠な意義があり、両国政府、企業、学校、家庭などの力強い支援のもと、高校生が相互訪問などを通じて相手の国、社会、文化を理解し、両国市民の友好交流を促すため、積極的な役割を果たしてきました。

今年は中日国交正常化45周年で、来年は中日平和条約締結40周年にあたり、両国関係には好転の雰囲気が見られます。両国の若者が自身の強みを生かし、学び合い、互いを客観的・全面的に認識し、両国関係の持続的改善に新しい彩りを添えるよう希望します。中日友好事業を志す「ティーンエイジアンバサダー」たちがたゆまず努力を重ねて外交官となり、いつか両国関係の発展に寄与する大使となるよう希望します。

—— 程永華大使



一億総活躍担当大臣 加藤勝信 様



日中友好協会会長 野田毅 様

皆さん今回の交流を通じて、この機会にそれぞれの地域で積極的に交流して欲しい。この45年間に日中関係は素晴らしい時も厳しい時もありました。そういう時を乗り越え日中両国は一衣帯水の重要な隣国であり、お互いどんな状況であろうとも友好関係を保たなければなりません。高校生の皆さん、是非それぞれが小大使としての役割を果たしていただき、そこでの交流が日中友好関係の礎となって大きく前に進むことを心から祈っております。

——野田毅会長



衆議院議員 中山泰秀 様



衆議院議員 茂木敏充 様



衆議院議員 中山正春 様



衆議院議員 逢沢一郎 様

今回東京で活動する北京から来た皆さん、東京では3年後の2020年東京オリンピック、パラリンピックに向け様々な事業が進んでいます。大分を訪問する武漢の皆さん、九州北部は豪雨で大変な被害を受けましたが、一日も早い復興に向け災害救援が進んでいます。大分は大変いいところですので、いろ



衆議院議員 加藤 鮎子様



外務省 四方敬之 様



参議院議員 福山哲郎 様



衆議院議員 福田 達夫様

いろと見て欲しいです。札幌を訪れる青島の皆さん、北海道の大きな大地、素晴らしい自然を満喫して欲しいと思います。今年の日中国交正常化45周年の記念すべき年であります。皆さんは日中友好に力を尽くした先輩の優れた伝統を受け継ぎ、友好の信念と勇気で日中関係の明るい未来を共に築いて欲しいと思います。

——茂木敏充議員

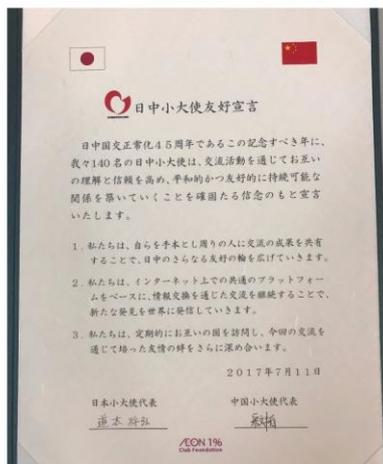
中国から来た皆さんからすると、1億総活躍大臣って、いったいなんの大臣だろうと思っています。日本の1億2千7百万人それぞれの方が夢や希望を持って、力を出して活躍していただける環境を作っていく、そういう役割を担っている大臣です。この日本 中国ティーンエイジアンバサダーは、高校生のみなさんが一週間の活動を通じて、夢、希望、あるいは将来に対する思いを実現していくきっかけになるかもしれません。そういう意味で私が今やっている役割とも非常に繋がるところがたくさんあると思います。 ——加藤勝信大臣

「日中小大使友好宣言の贈呈」

・贈呈相手：
中華人民共和国駐日本国
特命全権大使 程永華 様

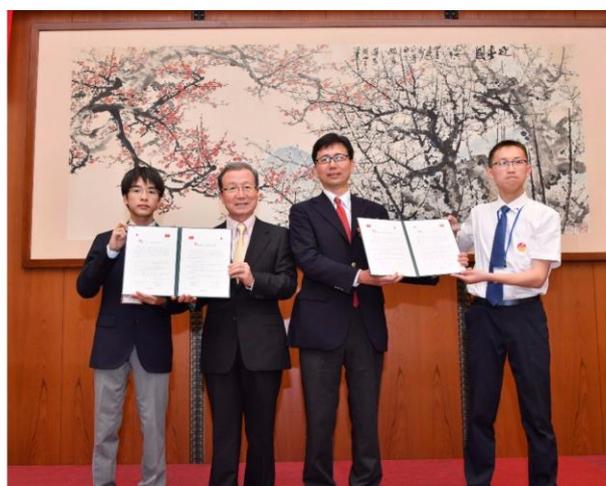
日本国外務省アジア大洋州局
参事官 四方敬之 様

・贈呈者：
日本小大使代表：
筑波大学附属高等学校



↑日中小大使友好宣言（日本語版） ↑中国小大使代表が日中友好宣言を読み上げる

中国小大使代表：
青島第58高等学校



↑日中小大使友好宣言の贈呈 ↑左から日本小大使代表、程永華大使、四方敬之参事官、中国小大使代表 ↑日中小大使友好宣言（中国語版）



↑中国小大使より合唱と影絵を披露



↑日本小大使より能の「敦盛」を披露



↑中国小大使より1%クラブ創設者岡田名誉会長へ書道の記念品を贈呈



↑中国小大使より程永華大使へ書道の記念品を贈呈

・北海道庁への表敬訪問

日 時：2017年7月14日（金）10:00～11:10

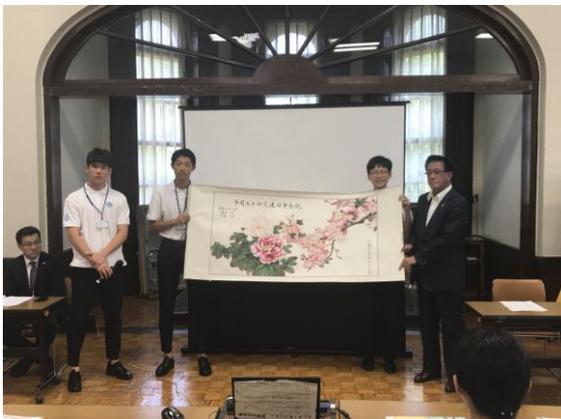
表敬相手：北海道副知事 辻 泰弘 様



↑ 辻泰弘副知事より両国小大使たちへ歓迎のご挨拶



↑ 中国小大使代表スピーチ



↑ 中国小大使より「牡丹・桜」の絵を辻泰弘副知事へ贈呈



↑ 記念写真（中央左から辻泰弘副知事、大崎誠子議員、佐藤哲夫国際局長など）

・大分市役所への表敬訪問

日 時：2017年7月14日（金）10:00～10:30

表敬相手：大分市長 佐藤 樹一郎 様



↑ 佐藤樹一郎市長より両国小大使たちへ歓迎のご挨拶



↑ 中国小大使より書道の掛け軸を佐藤樹一郎市長へ贈呈



↑ 以前大分に交換留学した中国小大使から佐藤樹一郎市長へ感謝の言葉

■ 歴史・文化体験活動

← 和太鼓体験

- ・ 浴衣着付け体験、浅草見学
- ・ 富田さとにわ耕園 収穫体験
- ・ 藍染体験、和太鼓体験
- ・ 竹細工体験、羊毛クラフト体験
- ・ 東京大学訪問 など



北京・東京組

武漢・大分組
青島・札幌組



↑ 獲りたてのピーマンを試食

↑ イオンの森にて見学

↑ 浴衣着付け体験の後、浅草で散策中の中国小大使



↑ 富田さとにわ耕園にて収穫体験をしている中国小大使たち



↑ 藍染体験を楽しんでいる中国小大使たち



↑ 羊毛クラフト体験をしている中国小大使たち



↑ 中国小大使にとって初めての和太鼓体験



↑ 東大にて講義を聞く中国小大使たち



↑ 竹細工体験をしている中国小大使たち



↑ 東京大学訪問、赤門にて



←ホームステイの様子

■ 交流活動

- ・ 授業体験
 - ・ ホームステイ
 - ・ フェアウェルパーティー
- ※それぞれの活動は東京、北海道、大分にて実施

・ 授業体験

日時：2017年7月14日（金）

場所：筑波大学附属高等学校 ⇔ 北京景山高等学校、北京三里屯第一高等学校
 東京学芸大学附属高等学校 ⇔ 北京順義区牛欄山第一高等学校
 岩田高等学校 ⇔ 武漢外国語高等学校
 札幌日本大学高等学校 ⇔ 青島第58高等学校

In 筑波



↑ 生徒会長はじめ全校の学生が北京小大使を歓迎

In 筑波



↑ 放課後、部活で卓球体験

In 学芸



↑ 弓道体験をしている北京の小大使

In 学芸



↑ 弓道について説明を受けている北京の小大使たち

In 岩田



↑ 日本小大使から数学の説明を受けている武漢小大使

In 岩田



↑ 浴衣着付け体験をしている武漢小大使



↑ 剣道体験をしている青島小大使



↑ 英語の授業で映画のセリフを練習している小大使たち

・ホームステイ

日 時：2017年7月14日（金）～7月16日（日）

場 所：交流ペアのご家庭

撮影協力対象：筑波大学附属高等学校（北京）
東京学芸大学附属高等学校（北京）
岩田高等学校（武漢）
札幌日本大学高等学校（青島）



↑ ホームステイ先のご家族と楽しく食事中



↑ 電車に乗って、いざホームステイへ！



↑ やっと会うことができました！乾杯！



↑ 辞書を使って、一所懸命会話をしようとする学生



↑ 願いことが叶いますように！

・フェアウェルパーティー

時 間：2017年7月16日（日）
場 所：ホテルイースト21東京（東京会場）
大分オアシスタワーホテル（大分会場）
ホテルエミシア札幌（北海道会場）

In 東京



↑参加者及びそのご家族の集合写真（東京会場） 総勢 200 名

In 大分



↑中国小大使より「太極扇」を披露（大分会場）

In 北海道



↑日中両国小大使より「盆踊り」を披露（北海道会場）

In 北海道



↑ペアに感謝のお手紙を読みあげている日本小大使（北海道会場）

In 大分



↑小大使と懇談している久渡晃副市長（大分会場）

In 東京



↑日本小大使よりお琴を披露（東京会場）

In 東京



↑中国小大使からもらった手紙を読んでいるお母様（東京会場）

In 北海道



↑小大使たちと懇談中の大崎誠子議員（北海道会場）

In 北海道



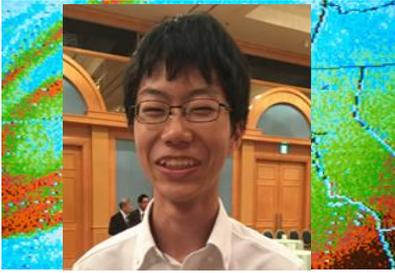
↑10月の再会を楽しみにしている小大使たち（北海道会場）

In 大分



↑最後のパフォーマンスを頑張っている日本小大使（大分会場）

■参加者の声



■首相官邸表敬訪問

萩生田官房副長官は青少年交流に期待しているとおっしゃったのですが、今まで自分は形式的なものだと考えていました。やっぱり実際に会ってお話を聞くと、友好関係の構築には、青少年交流がカギを握っているのだと痛感しました。普段聞けない話を聞けて、いい経験になりました。

——筑波大学附属高等学校 学生



■外務省表敬訪問

外務省に表敬訪問ができて光栄です。また岸田大臣のお話を聞けて大変嬉しく思います。質問会の時に、他の学生の質問と四方敬之参事官の回答を拝見し、日中交流及び世界交流について学生の皆さんがとても関心を持っていて、驚きました。その情熱がとても伝わってきました。大変有意義な時間でした。

——北京景山高等学校 学生



■中国大使館歓迎会

日中の友好関係はこれからもっと構築していかなければならないと感じました。だから小大使としてもっとペアと交流し、友情を深めて、そして日本の文化を周りの人に伝えていきたいと考えています。偏見や誤解などなくなるように努めていきたいと思います。

——武汉外国语学校 学生



■中国大使館歓迎会

普段会えないすごいVIPな人たちが沢山いて、貴重なお話も沢山聞けたので、すごく楽しかったし、パートナーとも会えて、いろんな話ができただけでもすごくうれしかったです。趣味も同じですごく仲良くできているので、ホームステイで、きっと仲良くなれると思います。

——筑波大学附属高等学校 学生



■東京大学訪問

東京大学はとても歴史が長い名門校で、沢山の東大生が働きながら勉強をしています。政府もそれに応じた政策を立てたと思います。法律で守られて学生はアルバイトしながら学業ができるのは、とてもいいことだと思います。中国の諺ですが、「家事をしなければ、お米が高いことが分らない」というように学費を稼ぐために早く社会に出て、自分の能力を高め、両親の苦勞を感じることができるのは、とてもよいことだと思います。

——北京三里屯一中 学生

■ 日中小大使の歩み

■1996年※金沢市（金沢辰巳丘高等学校） 松山市（松山東高等学校）	香港 24名
■1998年※千葉市（植草学園文化女子高等学校、 昭和学院秀英高等学校） 新潟市（敬和学園高等学校）	青島市 24名
■2004年※太田市（太田市立商業高等学校）	広州市 20名
■2009年 東京都 20名（筑波大学附属高等学校）	北京市 20名
■2010年 東京都 40名（筑波大学附属高等学校、 東京学芸大学附属高等学校）	北京市 40名
■2011年 東京都 39名（筑波大学附属高等学校、 東京学芸大学附属高等学校）	北京市 40名
■2012年 東京都 97名（筑波大学附属高等学校、 東京学芸大学附属高等学校、 お茶の水女子大学附属高等学校、 東京都立西高等学校）	北京市、天津市、青島市 100名
■2013年 東京都 30名（筑波大学附属高等学校、 東京学芸大学附属高等学校） 大阪府 15名（大阪教育大学附属高等学校池田校舎） 兵庫県 15名（兵庫県立姫路西高等学校）	北京市 30名 武漢市 15名 蘇州市 15名
■2014年 東京都 45名（筑波大学附属高等学校、 東京学芸大学附属高等学校） 千葉市 15名（千葉市立千葉高等学校）	北京市 30名 武漢市 15名 蘇州市 15名
■2015年 東京都 45名（筑波大学附属高等学校、 東京学芸大学附属高等学校） 千葉市 15名（千葉市立千葉高等学校）	北京市 30名 武漢市 15名 蘇州市 15名
■2016年※東京都 20名（筑波大学附属高等学校） 千葉市 10名（千葉市立千葉高等学校） 大分市 20名（岩田高等学校） 北広島市 20名（札幌日本大学高等学校）	北京市 20名 北京市 10名 武漢市 20名 青島市 20名

※1996年、1998年、2004年の交流は相互交流ではなく、中国の高校生による日本への訪問のみ。

※同年10月には日本の高校生が中国を訪問する予定。